

第 24 回天ヶ瀬ダム再開発事業景観検討委員会 議事要旨

開催日時：平成 25 年 4 月 12 日（金）13:30 ～ 15:30

開催場所：ゆめりあうじ 4 階 第 1 会議室

委員：近藤委員長、吉田委員、北村委員、吉水委員（欠席）、山本委員（欠席）、
中村委員（欠席）、川端委員（代理：島峯）、島田委員（代理：岡田）以上敬称略
事務局：琵琶湖河川事務所

[審議概要]

天ヶ瀬ダム再開発事業実施に伴い必要となるトンネル式放流設備について、景観・デザインの観点から各委員より意見及び助言を頂いた。会議は模型を積極活用し、対象施設の推奨案を様々な角度・視点から御覧頂くと同時に、ガラス窓面の採用が不可となった場合の代替案を提示し、提案デザインの検討をいただいた。

議事項目は以下のとおり。

- (1) 第 23 回議事要旨の確認
- (2) 今後の委員会議事内容案
- (3) 前回委員会の指摘事項と対応方針
- (4) トンネル式放流設備の景観デザイン：建屋・構造物

[議事概要（総括）および対応方針]

- (1) 第 23 回議事要旨の確認
 - ・植栽の購入種子について「中国製」の表記は適切でなく「中国産」とすべきである。
 - ・コマツナギを使用した場合の「ほかの植生が入らないという遷移を前提に行うならばやむを得ない」との表現がわかりにくいとため、「ほかの植生が入らないことを前提にするならばやむを得ない」と改めることが良い。
- (2) 今後の委員会議事内容案
特になし
- (3) 前回委員会の指摘事項と対応方針
特になし
- (4) トンネル式放流設備の景観デザイン
主な委員の発言、決定事項は以下のとおり。

（流入部）（ゲート室部）

- ・ランダム窓の案について、正方形の窓を入れるのではなく、スリットに合わせ縦長の窓を少し崩すイメージを考えていた。しかし、ガラス面を複数個所に作ることは管理上の問題になると想定されること、ランダム窓は装飾的な印象が強くなり、周辺の自然景観との調和という観点では違和感が生じることの理解をいただいた。
- ・建築物の排水手法を十分吟味すべきであるとの意見をいただいた。
- ・建築構造物に造詣の深い方は興味があつて良いが、一般の人は給水塔でもあるのか

という風に感じてしまう。施設を見せるとなれば、その周辺整備も含めていい観光スポットにするということを将来的に検討していただきたいとの意見をいただいた。

- ・観光スポットとして検討する場合、同時に動線の安全対策も検討いただきたいとの意見を頂いた。
- ・ゲート室建屋の柱間隔に変化が付いていることについて、委員の同意を得た。

ここでの結論は、以下のとおり。

- ・ゲート室部・流入部の建屋は、委員会として窓ありの案を推奨するが、維持管理上の問題から窓をなくす案を代替案として採用することで了承された。
- ・排水など詳細を吟味する。
- ・（流入部）補強土壁上から建屋下の鋼管矢板部分が見えてしまう位置まで人を入れないような処理（低木植栽等）を今後検討する。
- ・（ゲート室部）安全性を考慮した上で建屋を観光スポットとして見せる検討を将来的に行う。

（吐口部）

- ・吐口部の中壁は吐口部が大きすぎる印象をやわらげる効果がある。外観を間知石積みにするための検討をさらに行なっていただきたいとの意見をいただいた。
- ・吐口部横の金井戸谷川アーチカルバートおよびその周辺の表面処理を周辺に合わせるべくさらに検討していただきたいとの意見をいただいた。

以 上